

メキシコの魅力的な2つの地方都市（平成28年1月）

岡山県立大学は、平成27年12月に、メキシコの2つの大学（モンテレイ工科大学プエブラ校及びモンテレイ大学）と学術交流協定を締結しました。

成田空港からメキシコシティまでは、空路で12時間余りです。この首都から高速道路を使って東へ2時間ほど走った所に、プエブラという地方都市があります。

人口は周辺を含めて約200万ですが、旧市街へ足を踏み入れて、大変驚きました。巨大なカテドラル（大聖堂）があるほか、その周囲にはヨーロッパを彷彿とさせる建物が続いており、前日に首都で見た景観と比べても全く遜色がありません。プエブラは、東部沿岸の貿易基地であるベラクルスとメキシコシティとを結ぶ陸上交通の要として、古くからおおいに繁栄したということで、旧市街は世界遺産に指定されているのだと教わり、とても納得しました。「パティオ（建物の間の石造りの中庭）」でのメキシコ料理の昼食は、まるで宗主国のスペインに来ているような感じでしたが、時間がとてもゆっくりと過ぎて行きました。



モンテレイ工科大学プエブラ校では、大学独自の美術館をこの旧市街に設けています。古い住宅を活用して、学生や教員、市民の作品等を展示公開しているのですが、各部屋の床には、この地で大変有名でかつ評価も高い「タラベラ焼き」のタイルが、部屋毎にデザインや色を変えて敷き詰められていました。地中海起源の焼き物をベースに、中国の技術や当地の先住民の要素なども融合させているのか、独特の雰囲気を出しており、歴史のある街ならではの、美術品や意匠を大切にしている心強く感じました。

プエブラから国内線利用で北へ1時間余り、アメリカ国境近くのモンテレイへ移動しました。この間、飛行機からは、広大な農地に様々な作物が栽培されているのが見え、また石油資源が豊富なためか、日本とは違って内陸部に製油所が立地している等、豊かな国情が垣間見えました。メキシコは、面積が日本の5倍以上で、日本とほぼ同じ人口を抱え、またGDPも世界で15位前後であるなど、将来の発展の余地が大きいと感じました。

モンテレイに到着してみて、大変驚きました。高速道路網や近代的なビル群に加えて、牛肉が特産であるなど、まるでアメリカにいるような景観、そして雰囲気でした。モンテレイ工科大学の本部があるほか、モンテレイ大学もここに立地しています。周辺も含めると人口は400万に近く、メキシコ有数の大都市です。

夕方になって、小高い丘の上の展望台にご案内いただきました。360度、辺り全体を見通すことができます。眼下の美しい町並みはもちろんのこと、地域をぐるりと取り囲んでいる、形も大きさも迫力満点の岩山の連続が、一望のもとです。この地に立った者すべてをたちまち魅了してしまう、世界中探してもなかなか出会えないような絶景でした。



モンテレイ大学では、安藤忠雄氏が設計したデザイン学部棟を見学しました。キャンパスの間近でそびえ立つ岩山とのコントラストが素晴らしいことに加え、外観はもとより、内部も随所に独特な仕掛けがあって、素人の私でも実に興味深く拝見できました。

学術交流協定締結後の初の共同事業として、今年の1月下旬には、モントレイ工科大学プエブラ校デザイン学専攻学生の皆さんが製作した、木製玩具の作品展が倉敷で開催されました。いずれの玩具も色使いがとても豊かで、発想も実にユニークなものでした。倉敷が夕方の時間帯は、メキシコでは深夜でしたが、インターネットを活用して、学生同士の意見交換も活発に行われました。お互いに率直な感想や意見を述べ合っておおいに盛り上がり、期待していた以上に楽しく有意義な催しとなりました。

メキシコの2校との友好交流の進展が今後大変楽しみな、2016年の幕開けです。